

## 1. 検討課題

高齢者に関する都島区の課題の共有の（主な項目）4：独居の高齢者の孤立及び安否確認  
「高齢者が元気なうちから自分の将来像を描く機会が少ない。」

## 2. めざす目標

「高齢者が元気なうちから、もしもの時を考える」

→令和5年度の具体的目標「緊急連絡先の準備の周知」

## 3. 次年度取り組み内容として検討に至った背景

【都島区の現状】・高齢化率の上昇：令和4年度区民全体の25.4%

・高齢者の独居率の上昇：令和2年国勢調査結果では10年前の1.24倍

・認知症高齢者率の上昇：令和4年度要介護認定者中、日常生活自立度Ⅱ以上と

認定された割合37%

【事例】70代女性。独居、持ち家、身寄り不明（R4.9月開催の本会議でのACPへの取り組み事例より）  
近所の方から新聞が溜まっていると連絡あり、消防・警察が家で倒れている本人を発見し救急搬送。  
搬送時、身寄りが分かるものは不明。数日後意識が戻らぬまま搬送先の病院で死去。

→身寄りが不明のまま死後の手続きを進めざるを得なく、病院で死亡届を提出。葬儀は、親族不明のため病院にて区役所保健福祉課（生活支援）に相談後、葬祭扶助。

→3か月後、生前本人に頼まれていた親族が安否確認の電話をするも通じず、警察や包括に連絡が入り、区的生活支援にて親族に死去を伝える。

### 【課題への必要な取り組み】

本人の意思が尊重され「住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続ける」ための普及啓発

- ・緊急連絡先の準備 ・ エンディングノートや安心カプセル等の作成及び啓発・
- ・ACP（愛称：人生会議）の啓発 ・ 成年後見制度の普及啓発 ・ 任意後見人制度の普及啓発
- ・支援者の知識の向上及び、支援者から高齢者へ発信していきける環境づくり

## 4. 次年度の取り組み方法

包括的4事業が、めざす目標を共通にし、各々の取り組みの中で実施

### 【現在の包括的4事業が実施している、または実施予定の取り組み】

- ・エンディングノートの作成・啓発（区民講演会・啓発ビデオ作成とYouTube配信）
- ・認知症カフェでエンディングノートの講座開催
- ・オンラインによる終活講座
- ・独居男性のつどい～男の終活
- ・専門職に成年後見制度の研修
- ・面談時に、これからどう過ごしたいか等、本人・家族に意思確認を行っている。
- ・マンション、老人クラブでの終活講座（予定）
- ・大阪市家族介護支援事業啓発新聞作成（予定）
- ・緊急入院時等、もしもの時に備えた緊急連絡先の「伝える情報シート」（仮名）の検討中